**場所**　東京都日野市

**面積**　4.5ha

**活動目的**

近接する崖線斜面林など都市化が進む中で残された緑地と生態的なつながりをもって、様々な生きものが利用できる樹林環境の拠点として機能すること、居住者や地域住民が身近な自然とふれあえる場を創出することを目的として整備し維持管理を行っている。




空中写真：地理院地図
（国土地理院）

**サイト概要**

1958～1960年に入居開始となった住宅団地（29.6ha）のうち、1997年に団地建替事業が開始された建替団地内（10.7ha)の緑地群(4.5ha)。団地建替事業では、既存樹木の保全と活用、近接緑地と団地内の緑をネットワークする緑の回廊づくり、宮内省御料林であった頃からの樹木が残る樹林地「森」の保全と活用を基本方針として屋外整備が行われた。住棟間には草地が整備され、ツボスミレやゲンノショウコなども群で生育している。「森」の再整備では「団地ビオトープ」として「森」を保全しつつ木道整備など居住者の憩いの場として整備し、「生き物共生エリア」として意識的な維持管理を実施している。

**土地利用の変遷**

団地建設以前は一面の桑畑と雑木林とわずかな民家だけの土地であった。1922年、桑畑の一角に設けられた宮内省帝室林野管理局林業試験場「日野苗圃」（御料林）の樹木は、戦後の土地区画整理事業やその後の団地建設でも保存・活用され、「森」やその周辺の高木、ユリノキ並木にその姿を残している。中でも、「森」は樹林の形をとどめており、1973年に日野市の保存樹林に指定された。団地建替事業は事業者・居住者・行政の3者による検討を経て作成されたマスタープランにより屋外整備が進められ2008年に完了した。

**サイト周辺の環境**

JR豊田駅から250m～1.2㎞の立地でありながら、浅川と多摩川に挟まれた日野台地の南端にあたり、サイト南東側の崖線斜面林には黒川清流公園が整備され、豊かな緑や湧水がある。御料林の樹木を残した日野市管理の複数の緑地公園に囲まれている。

**アピールポイント**

約100年前に造林された樹林地が「生き物共生エリア」として意識的に維持管理されている。樹林地内は木道が整備され、居住者や地域住民の憩いの場や交流の場として利用されている。住宅団地でありながら敷地全域に樹林地と草地で構成されたまとまりのある緑が存在し、生物が生息できる多様な空間が維持されている。

**生物多様性の価値**

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

**【場の概況】**

サイトの北東部にある「森」は、宮内省御料林であった時代から残るまとまった樹林地となっている。この地域での生育が珍しいモミ林や、クヌギ・コナラも生育しており、定期的に維持管理され現在まで守り育てられてきた。また、キジムシロ、スミレ類等、都市部では少なくなっている草本類も確認された。日野市生物多様性地域戦略（2018年3月）においてホットスポットのひとつに挙げられている。

**【主な植生】**

ヒノキ・クヌギ・コナラ林、カツラ林、モミ林、アカマツ林

**【確認された主な動植物など】**

植　物　キジムシロ（Potentilla fragarioides）、アマチャヅル（Gynostemma pentaphyllum var. pentaphyllum）、ツボスミレ（Viola verecunda var. verecunda）
昆虫類　オンブバッタ（Atractomorpha lata）、
ダイミョウセセリ（Daimio tethys tethys）、
カナブン（Pseudotrynorrhina japonica）
爬虫類　ニホンカナヘビ（Takydromus tachydromoides）
鳥　類　アオゲラ（Picus awokera）、オナガ（Cyanopica cyanus）、
シジュウカラ（Parus minor）、ツバメ（Hirundo rustica）
哺乳類　アズマモグラ（Mogera imaizumii）



写真の説明：ヒノキ・クヌギ・コナラ林



写真の説明：モミ林

## 生物多様性の価値

### 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

**【場の概況】**

宮内省御料林であった時代から残るまとまった樹林地である「森」には木道が整備され、林床植物を保護するとともにの散策を楽しめるようになっている（文化的サービス）。サイト内全域に樹林地や草地で構成されたまとまりのある緑があり生物の生息環境として機能するとともに、受け継がれてきた樹木が美しい景観と、快適な熱環境を提供している（文化的サービス、調整サービス）。

**【主な植生】**

ヒノキ・クヌギ・コナラ林、カツラ林、モミ林、アカマツ林、シバ草地、ケヤキ並木、ユリノキ並木

**【確認された主な動植物など】**

植　物　キジムシロ（Potentilla fragarioides）、アマチャヅル（Gynostemma pentaphyllum var.
pentaphyllum）、ツボスミレ（Viola verecunda var. verecunda）
昆虫類　オンブバッタ（Atractomorpha lata）、ヤマトシジミ（Zizeeria maha argia）、
アゲハ（Papilio xuthus）
爬虫類　ニホンカナヘビ（Takydromus tachydromoides）
鳥　類　アオゲラ（Picus awokera）、オナガ（Cyanopica cyanus）、
シジュウカラ（Parus minor）、ツバメ（Hirundo rustica）
哺乳類　アズマモグラ（Mogera imaizumii）



写真の説明：散策と林床保護のための木道



写真の説明：多様な在来植物が生育する樹林地

**生物多様性の価値**

## 価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

**【場の概況】**

サイトの北東部にある「森」は、宮内省御料林であった時代から残るまとまった樹林地となっている。
サイト内全域に樹林地と草地で構成されたまとまりのある緑があり、生物が生息できる多様な空間が創出されている。

**【確認された希少種】**

　2023年に実施した調査の際に以下の希少種（環境省レッドリスト、東京都レッドリスト記載種）が確認された。
　なお、人為的に植栽されたものや利用者により移入されたと考えられるものは含めない。

　爬虫類　ニホンカナヘビ（Takydromus tachydromoides) 都RDB（南多摩）：NT

都RDB：東京都レッドデータブック2023
VU:絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧



写真の説明：対象サイト内で確認されたニホンカナヘビ
（都RDB（南多摩）：NT）

## サイトの活動計画・モニタリング計画

### 活動計画の内容

年間管理計画

| | | |
|---|---|---|
| 樹木管理 | 管理箇所 | 添付資料2-9参照 |
| | 実施時期 | 春季剪定（ツバキ・サザンカ類）：5～6月中旬<br>夏季剪定（低木・生垣刈込）：6月中旬～9月中旬<br>秋季剪定（常緑高木）：9月中旬～12月上旬<br>冬季剪定（落葉高木）：12月下旬～2月下旬<br>病害虫防除（発生の都度・薬剤散布は極力行わない）<br>灌木内除草：必要に応じて |
| | 管理内容 | 樹木の剪定、病虫害防除、灌木内除草 |
| 地被管理 | 管理箇所 | 添付資料2-9参照 |
| | 実施時期 | 芝刈（5月、7月、9月、11月の年4回）<br>集会場前芝刈（4～11月の下旬　年8回） |
| | 管理内容 | 芝刈 |
| 「森」（生き物共生エリア）の管理 | 管理箇所 | 多摩平の森の樹林地（添付資料2-6　p2参照） |
| | 実施時期 | 添付資料2-6　p5参照 |
| | 管理内容 | 樹林地(高中木及び低木の整姿工、雑草刈り、除草、周知看板の設置) |

実施体制 ：屋外緑地空間管理の専門職（グリーンマネージャー）を配置したうえで、有資格者配置を条件として総合評価方式入札により決定した企業が管理作業を実施（3年に1度公募）

### モニタリング計画の内容

**【モニタリング対象】**
①景観　②植物：植生、植物相
③動物：鳥類、昆虫類（チョウ、トンボ、バッタ類）、
その他（両生類・爬虫類・哺乳類）

**【モニタリング場所】**
対象サイト内全域の緑地

**【モニタリング手法】**
景観、植生：定点で写真撮影、目視確認　植物相：現地踏査、種の目視確認
動物：現地踏査、目視、声による種の確認
希少種を確認したら、位置、個体数を記録

**【モニタリングの実施時期及び頻度】**
5年に１度程度の頻度で、次の時期に実施
①景観　秋　②植物　植生：秋、植物相：春、秋
③動物　鳥類：初夏、冬　昆虫類：夏、秋　ﾄﾝﾎﾞ類の幼虫　初夏、冬

**【モニタリング実施体制】**
有資格者配置を条件として総合評価等方式の入札により決定した企業が配置する専門調査員が実施